

2014年度【第4回】学生観光論文コンテスト

テーマC：我が国のMICE（マイス）競争力強化に向けて、私の提案

沖縄におけるMICE都市計画 ～MICE TOWN 構想 2014～

琉球大学観光産業科学部観光科学科
観光政策研究ゼミ4年次

浦崎隆宏
大城望美
親泊さなえ
川野羽
城間友紀乃
谷川仁美
比嘉江梨香
宮平祥加

目次

はじめに.....	2
第1章 世界と日本の MICE について.....	2
1. 世界の MICE	2
2. 日本の MICE.....	3
第2章 沖縄県の MICE について.....	4
1. 沖縄県の観光について.....	4
2. 沖縄県の MICE について.....	5
3. 沖縄県 MICE の強み、優位性.....	6
4. 沖縄県 MICE の弱み、課題.....	7
第3章 先進地研究.....	7
1. 横浜.....	8
(1) 横浜の概要.....	8
(2) 横浜 MICE の強み、優位性.....	9
(3) 横浜 MICE の弱み、課題.....	9
(4) パシフィコ横浜ヒアリング調査.....	9
(5) 先進地から考える沖縄の学ぶべき点.....	10
2. シンガポール.....	10
(1) シンガポールの概要.....	10
(2) シンガポール MICE の強み、優位性.....	12
(3) シンガポール MICE の弱み、課題.....	13
(4) 先進地から考える沖縄の学ぶべき点.....	13
第4章 私たちの提案～MICE TOWN 構想 2014～.....	13
おわりに.....	15
参考文献・資料.....	15

はじめに

現在、我が国では国内各地域が MICE 誘致に積極的に取り組んでいる。MICE の誘致・開催は高い経済効果が見込まれ、グローバルネットワークの構築や開催地域の魅力発見につながるなどの効果が期待できる。我が国の MICE 競争力強化にあたり、大都市だけでなく国内各地域も強化する必要がある。そこで日本の一地域として我々の住む沖縄県の MICE を今後どのように振興していくかを本稿で考察する。

沖縄県は豊かな自然資源、本土とは異なった伝統文化などの地域的特性を有し、年間約 650 万人の観光客が訪れる国内有数の観光地である。2000 年の九州沖縄サミットが開催されたことを契機に、国内でも早期に MICE 誘致に取り組んできた。国内外の競合地との激しい競争が予想されるが、沖縄の地理的及び文化的特性を活かすことやホスピタリティ面を強化することで、MICE 開催都市として競争力強化が図られると考える。日本とアジアの中間に位置する沖縄県が MICE 開催地としてのブランド力を強化することにより、日本全体のイメージアップにも繋がると期待する。

本稿では、第 1 章で MICE を取り巻く世界や日本の現状、第 2 章で沖縄県の MICE の現状と課題、第 3 章で先進地研究として横浜、シンガポールの現状を踏まえた沖縄県の可能性、第 4 章で調査結果を踏まえた提案を行う。

第 1 章 世界と日本の MICE について

1. 世界の MICE

現在、MICE 全体に関する国際的な統計がとられていないため、現時点で最も有用である国際会議協会（以下 ICCA）の国際会議に関する統計によれば、2013 年の国際会議開催件数は、11,685 件と過去最高を記録している（図 1）。

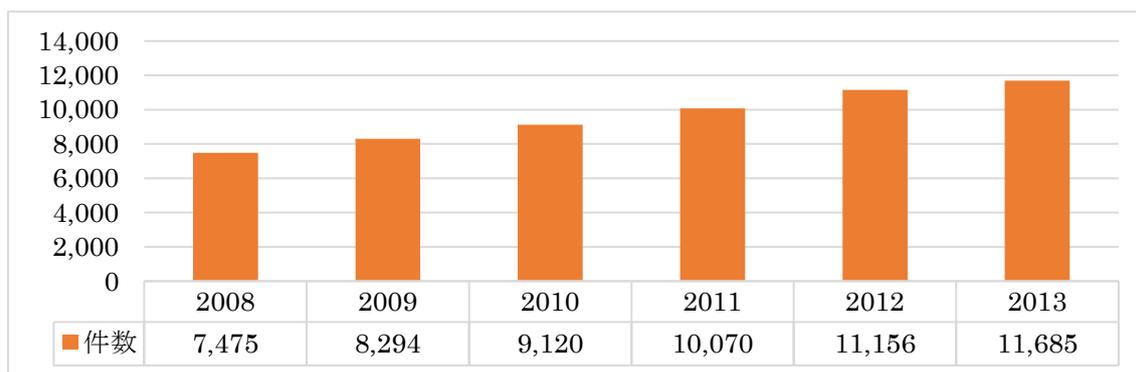


図 1 国際会議件数の推移

（出典：ICCA statistics report 2008-2013 より作成）

国別開催件数の内訳では、上位のほとんどが欧米諸国である。しかしながら、近年目覚ましい経済成長を続けているアジア・大洋州地域に関しても国際会議開催件数が増加している。アジア・大洋州地域では、オーストラリア、韓国、シンガポールなどの主要国が国

家レベルの戦略として MICE の誘致・開催を強化し、官民を挙げた誘致活動を積極的に展開している。

2. 日本の MICE

図 2 は、観光・レジャー以外で訪日した外国人の訪日目的を示したものである。現状では、一般的な商談等ビジネス目的が多く、インセンティブツアーや、イベント、展示会、見本市といったいわゆる MICE 分野は少ない。

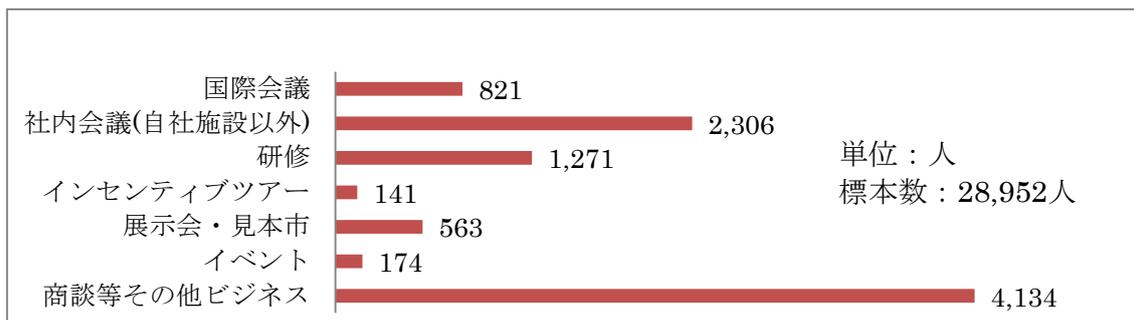


図 2 外国人の MICE 関連における訪日目的

(出典：国土交通省 観光庁 訪日外国人消費動向調査
「平成 25 年の年間値の推計（暦年）※確報値」より作成)

表 1、表 2 から、日本全体としてはアジア・大洋州地域において国際会議件数は 1 位である。しかしながら、日本における国際会議の開催は国内の各都市で分散して行われているため、都市別の開催は他のアジアの主要都市に劣っていると考察できる。

表 1 アジア・大洋州国別国際会議開催

順位	国名	件数	世界順位
1位	日本	342	7位
2位	中国	340	8位
3位	韓国	260	12位
4位	オーストラリア	231	16位
5位	シンガポール	175	21位
6位	インド	142	27位
7位	タイ	136	29位
8位	台湾	122	33位
9位	マレーシア	117	35位
10位	インドネシア	106	37位

表 2 アジア・大洋州都市別国際会議件数

順位	都市名	件数	世界順位
1位	シンガポール	175	6位
2位	ソウル	125	9位
3位	北京	105	18位
4位	バンコク	93	20位
4位	シドニー	93	20位
6位	香港	89	23位
7位	東京	79	26位
8位	台北	78	28位
9位	上海	72	29位
10位	クアラルンプール	68	33位

(出典：JNTO「2013年の国際会議開催統計」より作成)

アジア 1 位の地位を維持するために、我が国では 2010 年を「Japan MICE Year」に設定し、2013 年にはグローバル MICE 戦略都市を選定した。グローバル MICE 戦略都市に

は、東京・横浜・京都・神戸・福岡の5自治体が選定され、グローバル MICE 強化都市には大阪と名古屋の2自治体が選定された。選定地域は海外専門家派遣やプロモーション支援など国の集中的な支援を受けながら自立的な MICE 振興を図ることが期待されている。

しかしながら、現状ではマーケティング戦略や魅力ある MICE 施設、Wi-Fi 環境の整備、文化施設や公的空間の利用開放が不十分であり、万全な受け入れ態勢と MICE 推進体制を構築していく必要がある。我が国の MICE 競争力を向上させるためにも、独特な文化、技術力、治安の良さ、ホスピタリティの良さなどの強みを活かし、他と差別化した MICE 開催を行うことが重要だ。

同時に戦略都市や強化都市を筆頭に、各地方都市も各々強みや地域性を活かした MICE 受け入れ態勢を整えていく必要がある。

第2章 沖縄県の MICE について

(1) 沖縄県の観光について

国内有数の観光地である沖縄県は、景気低迷や米国同時多発テロ、SARS、東日本大震災などの影響を受けたことによる一時的な減少はあるものの観光客数、観光収入ともに増加の一途をたどっている。また年々外国人観光客数も増加しており、国外からも注目されている観光地である。

図3は沖縄県における日本復帰後の入域観光客数と観光収入の推移であるが、復帰直後の1972年は56万人の観光客数、324億円の観光収入が、その後徐々に発展を遂げ、昨年2013年には658万人の観光客数、4,479億円の観光収入を記録した。沖縄県では、2021年度までに観光収入1兆円、入域観光客数1,000万人を目標としている。

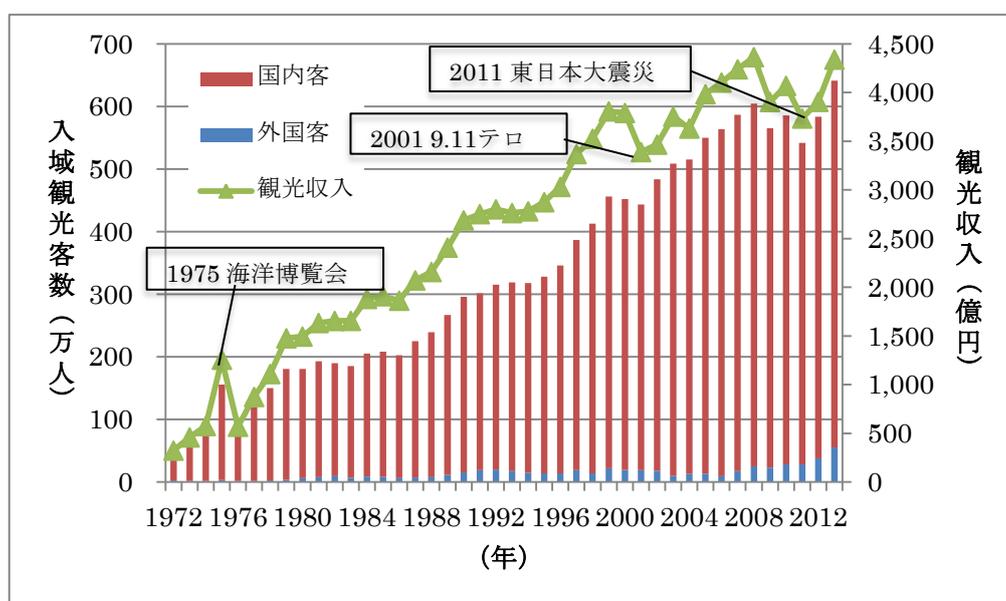


図3 入域観光客数と観光収入の推移

(出典：沖縄県「観光要覧」より作成)

現在、国内外の観光客誘致を図るために様々な取り組みが行われており、2013年には海外市場において「Be.Okinawa」というコンセプトを用い、沖縄観光ブランドの浸透を図っている。実地調査で訪れたシンガポールでは、空港や MRT サマセット (Somerset) 駅で「Be.Okinawa」の広告を目にすることができた。沖縄県はアジアのみならず欧米地域も含めて積極的にプロモーションを展開している。



図4 Somerset 駅にて

2014年には那覇空港国際線の新しい旅客ターミナルとクルーズ専用ターミナルが供用開始され受け入れ体制の強化が図られた。また、2020年には第2滑走路の増設を計画しており、観光地として更なる発展が予想される。沖縄県において観光産業は今後の発展のためにも必要不可欠な産業であるといえる。

(2) 沖縄県の MICE について

沖縄県は2000年の九州沖縄サミットを契機に、MICE 誘致に取り組んでいる。将来のあるべき沖縄の姿に向けた基本構想「沖縄21世紀ビジョン」に基づき、MICE を推進して国際的な沖縄観光ブランドの確立を目指しており、2021年度までの MICE 開催件数1,000件、参加者数20万人を目標としている。

沖縄県内の主要 MICE 施設である沖縄コンベンションセンターと万国津梁館の開催件数と入場者数は図5のとおりである。東日本大震災のあった2011年度は開催件数、入場者数ともに減少しているものの、翌年の2012年度には回復し、2013年度の入場者数においては過去最高である約14万人を記録した。近年、催事開催件数は減少傾向にあるものの、入場者数は増加していることから、一件当たりの入場者数が増加したものと推察する。

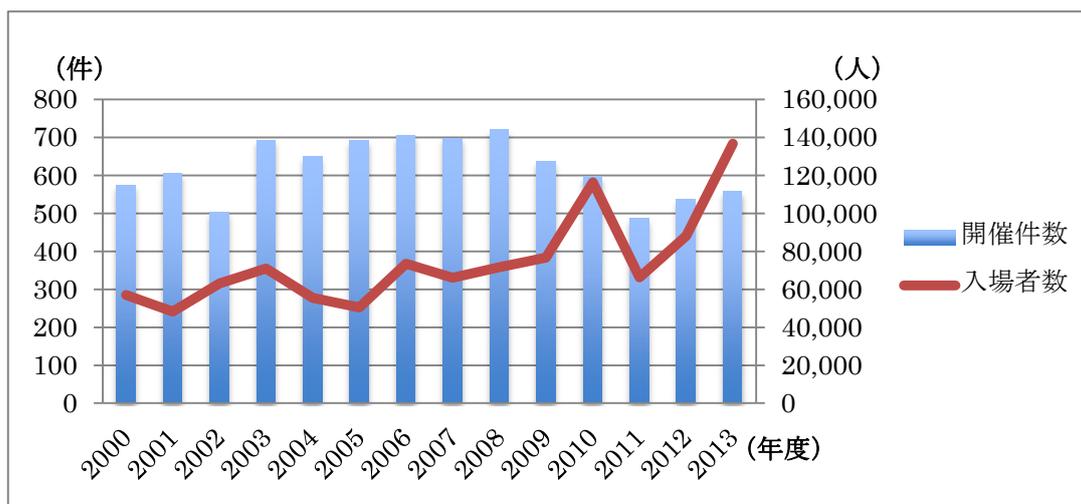


図5 沖縄県主要会議施設における開催件数と入場者数

(出典：沖縄県「観光要覧 平成24年」P60、P61より作成)

しかしながら現在、既存の MICE 施設の規模や機能の不足から、一件当たりの入場者数が多い大規模 MICE の誘致ができず、大型 MICE 施設の必要性が訴えられている。そのため、沖縄県では大型 MICE 施設の建設計画が進行している。新大型 MICE 施設は今後の MICE 開催の発展、沖縄観光の発展にも大きく寄与すると考えられる。

(3) 沖縄県 MICE の強み、優位性

沖縄県は、島ごとに異なる魅力を有する離島、慶良間諸島の国立公園指定、琉球王国時代から伝わる伝統文化など多くの強みがある。その中でも MICE 誘致に積極的に取り組んでいる沖縄県の強み、優位性として以下の 3 点を挙げる。

① アジアの大都市への地理的優位性

沖縄県は日本本土とアジアのどちらにも近いという地理的優位性を有する。アジアの主要都市である東京、ソウル、香港、上海、台北、マニラ等が 1,500 km 圏内、4 時間以内での移動が可能である。この地理的優位性を活かし、沖縄を拠点とする国際物流拠点化にも取り組んでいる。沖縄を経由することで首都圏からアジア諸国への輸送をよりスピーディーに行うことができるようになり、那覇空港の国際貨物取扱量は成田、関西、羽田に次ぐ第 4 位と躍進している。また、国際物流拠点化と連動して「食」をテーマにした国際商談会「沖縄大交易会」の開催があり、今後もこのようなアジア市場をターゲットとした商談会や見本市などの開催が期待される。

② 国際的な研究機関、教育環境

沖縄県では 2012 年に世界最高水準の教育研究を行う沖縄科学技術大学院大学（以下 OIST）が開学、また石垣島には国立天文台があり、最先端の研究施設や教育環境が整いつつある。特に、OIST は科学技術に関する人材育成だけでなく、知的産業集積という効果も期待されており、2014 年には OIST 発の第 1 号ベンチャー企業を設立している¹。古谷・金子（2009）によれば、大学や研究機関が集積している都市や大学発ベンチャーが多い都市は国際会議の開催も多いことが明らかになっており、OIST は沖縄県の MICE において大きな強みであるといえる。

③ 地域的特性を活かしたアクティビティの提供

沖縄県では、積極的に官民一体となって豊富な自然資源、独自の伝統文化などの地域的特性を活かしたチームビルディングやパーティープランなどの開発に取り組んでいる。

MICE アトラクションとして沖縄の芸能や文化、風習を題材とした「おきなわ新喜劇」、AR(拡張現実)技術などを活用した街探索型チームビルディングなど沖縄ならではの MICE メニューの開発がおこなわれている²。

また沖縄県は首里城や識名園など世界遺産登録施設を利用したユニークベニュー活用に

¹ 琉球新報「OIST 技術で創業・研究へ 初ベンチャー設立」
<http://www.okinawatimes.co.jp/article.php?id=78403> (2014/11/21 アクセス)

² エンターテインメント創出・観光メニュー開発等支援事業「元気プロジェクト」
http://www.genkiproject.jp/progress_detail.html?cat=87# (2014/11/17 アクセス)

ついて、他地域より比較的規制緩和が進んでおり、MICE における利用可能性が高い。

(4) 沖縄県 MICE の弱み、課題

沖縄県は MICE 開催地として他の競合地に負けない魅力があるものの、さらなる MICE 振興には多くの課題がある。その中でも主な課題 4 つをあげる。

① MICE 施設の規模

現存の MICE 施設である沖縄コンベンションセンターでは、大規模な学会や会議を行う上で分科会を行うための部屋数の不足、また内装の質や高級感といった点においてパーティー会場として利用できないなどの理由から、これまで受け入れが出来なかった事例がある。このことから現在、沖縄県では新大型 MICE 施設建設計画が進んでいる。2021 年の開設に向け、取り組みを行っているが、現在建設地の選定が難航している。

② 雨天時や夜間のエンターテイメント不足

MICE 参加者は、日中に行われる会議、研修等の時間外に沖縄を観光することが推測される。しかしながら、沖縄には夜間や雨天時に楽しめるエンターテイメントが少ない。現在、沖縄県を代表する観光施設である「美ら海水族館」や「国立劇場おきなわ」などの屋内施設を活用したエンターテイメント強化に取り組んでいる。また、沖縄県でもカジノを含む統合型リゾート(IR)の導入に関する議論がなされている。

③ 人材育成

MICE を計画、運営していくミーティング・プランナーや、行政機関において MICE を専門とした人材の育成が必要である。また、沖縄県「平成 24 年度外国人観光客満足度調査」によれば、外国語対応への満足率は 12.4%と極めて低いため、外国語対応が可能な人材の育成も必要である。

④ 沖縄県の知名度

沖縄県は日本有数の観光地であるが、日本政策投資銀行の調査によるとアジアにおける沖縄の認知度は 54%、訪問意欲は 25%で改善の余地がある。また沖縄への外国人観光客の約 8 割がアジア諸国からの訪問であり、欧米諸国からの訪問は 1 割にも満たない³。世界中からの参加者が見込める国際的な MICE 開催地として選ばれるには、沖縄県の知名度の向上が必要である。

第 3 章 先進地研究

本章では、東京に次ぐ第 2 位の集客数を誇り大型 MICE 施設を有する横浜とアジアを代表するビジネス都市であるシンガポールの MICE 先進 2 地域の取り組みを検証する。

³ 一般財団法人南西地域産業活性化センター「平成 24 年度自主研究事業 沖縄における欧米人観光客の誘致に向けた基礎調査 P6」

[http://www.niac.or.jp/topix/How%20to%20Attract%20Western%20Tourists%20for%20Okinawa%20\(Jp\).pdf](http://www.niac.or.jp/topix/How%20to%20Attract%20Western%20Tourists%20for%20Okinawa%20(Jp).pdf) (2014/11/20 アクセス)

1. 横浜

(1)横浜の概要

横浜には山下、みなとみらい、横浜駅、新横浜駅と MICE ゾーンが 4 つに分かれている。街は自然やアートがあふれていて開放的な雰囲気を感じることができる⁴。2013 年の観光集客実人員(宿泊)は 471 万人、観光集客実人員(日帰り)は 2,663 万人となり、総数は 3,134 万人、観光消費額については過去最高の 2,334 億円となった(図 6)。

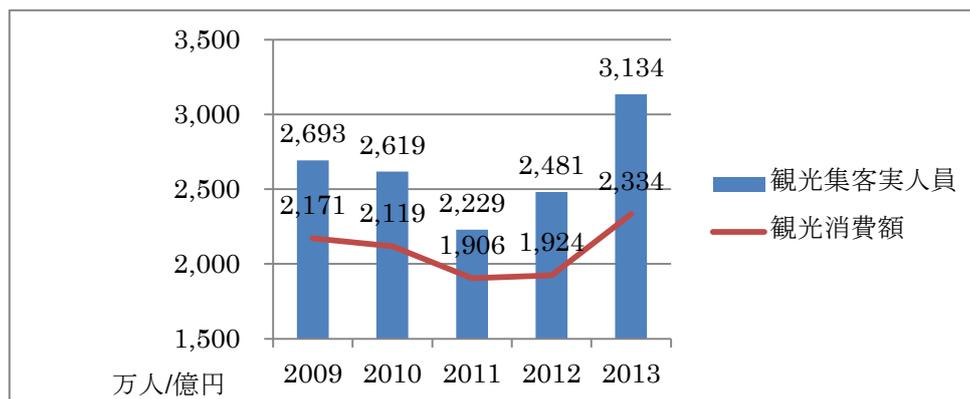


図 6 観光集客実人員及び観光消費額の推移 (2009 年～2013 年)

(出典：文化観光局振興課横浜市記者発表資料より作成)

また、国際会議の開催件数(2012 年)の上位 5 都市をみると、横浜市は東京都、福岡市、京都市に次ぐ 191 件であった(表 3)。一方、横浜市の国際会議の参加者数については、約 22 万人と東京 23 区の約 21 万人を超え、最も多くなっており(表 4)、さらに会場別の国際会議の開催件数、参加者数をみると、パシフィコ横浜が 84 件、約 18 万人と全国で最も多い。⁵

表 3 都市別国際会議の件数

国際会議件数	(件)
東京(23区)	500
福岡市	252
京都市	196
横浜市	191
大阪市	140

表 4 都市別国際会議の参加者数

参加者数	(人)
横浜市	225,951
東京(23区)	214,425
福岡市	171,049
名古屋市	126,500
神戸市	124,681

(出典：JNTO「第 1 章日本で開催された国際会議の動向」(2012 年)より作成)

⁴ 出典：横浜市 参考資料 <http://www.city.yokohama.lg.jp/bunka/kancon/convention/mice/sankou.pdf> (2014/11/08 アクセス)

⁵ 出典：JNTO 第 1 章 日本で開催された国際会議の動向 http://mice.into.go.jp/data/stats/pdf/cv_tokei_2012_1shou.pdf p10.11.12 (2014/11/12 アクセス)

(2)横浜 MICE の強み、優位性

日本の大手企業の本社が集中している東京駅から 40 分でアクセスすることができるため、企業のミーティングを誘致するうえで大きな強みである。また、電車で 30 分のところに位置する羽田空港が 2010 年に再国際化したことにより、海外からのアクセスも向上している。首都圏でありながら美しい港があり、緑も多く、ロケーションにも優れている。

横浜にとっては国内有数の機能集積型コンベンション施設であるパシフィコ横浜の存在が大きい。パシフィコ横浜では多数の科学・技術・医学系の学会に加え、APEC（2010 年）の開催実績がある。また、開業 20 年のノウハウの積み重ねによる運営力や顧客、他の関連企業との信頼関係が強く、高い稼働率を誇っている。

(3)横浜 MICE の弱み、課題

現在パシフィコ横浜は日本国内で代表される MICE 施設の一つだが、横浜市 MICE 機能強化検討委員会によれば、横浜市自体の魅力を十分にアピール出来ておらず、海外からの知名度が高くないことを課題としている⁶。横浜は多くの観光集客人員を誇り総数 3,134 万人だが、宿泊は 471 万人と総数の 15%程度である。横浜のような東京に近い地域では、宿泊は東京というケースが多い。

パシフィコ横浜の 2012 年度開催催事に関する調査結果でも全体の経済波及効果が 2,070 億円なのに対して、神奈川県への経済波及効果は 920 億円という数字が出ている。この調査結果からも、経済効果の多くが域外に流出している。MICE 参加者の横浜市内宿泊者の確保が大きな課題といえる。

(4)パシフィコ横浜ヒアリング調査

パシフィコ横浜（正式名称：株式会社横浜国立平和会議場）は日本最大のコンベンションセンターで 20,000 m²の展示ホールをもち、約 5,000 人が収容可能である。パシフィコ横浜での開催件数・稼働率・参加者数は増加傾向にあり（表 5）、国立大ホール、展示ホールについては 75%前後の高い稼働率を誇っている。

パシフィコ横浜が MICE 開催地として選ばれる理由の一つに MICE に必要なすべての機能を集約した「ALL IN ONE」の機能集積型コンベンション施設であることがあげられる。また、パシフィコ横浜は株式会社であるため社員の入れ替わりも少なく、スタッフと顧客の信頼関係が築けるため、リピートや他の顧客の紹介も多い。その信頼関係は国内だけでなく海外まで波及し、国際的な MICE の誘致にも成功している。

⁶ 出典：横浜市 MICE 機能強化検討委員会 国際競争力ある MICE 拠点都市の確立を目指して
<http://www.city.yokohama.lg.jp/bunka/kancon/convention/mice/honbun.pdf>（2014/11/08 アクセス）

表 5 パシフィコ横浜 MICE 統計 (国立大ホール・会議センター・展示ホール合計)

年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度
開催件数 (件)	584	600	717	729	759
実質日数稼働率 (%)	203	192	190	217	217
参加者数 (千人)	3,698	2,795	3,261	3,624	3,983

※実質日数稼働率＝稼働日数÷利用可能日数

(年間 365～6 日－施設点検等の閉館日数 24 日)

(出典：パシフィコ横浜 Annual Report 2013 より作成)

(5)先進地から考える沖縄の学ぶべき点

パシフィコ横浜は、日本最大のコンベンションセンターであり、沖縄でも大型 MICE 施設を建設する計画がある。沖縄で大型 MICE 施設を建設するにあたってパシフィコ横浜から学べるものとして、「機能集積型施設」、「株式会社化」、「市民の理解」をあげる。MICE 施設には滞在時の利便性が強く求められる。沖縄県も宿泊施設や商業施設を集積した MICE 施設を新設するべきだろう。

また、施設を株式会社にすることで社員の移動が少なく、顧客との深い信頼関係などから催事の誘致の成功に繋げることができる。さらに、パシフィコ横浜は、市民の理解を得ることにより市民ボランティアの数も増え、都市全体で高いホスピタリティを築き上げている。それが都市の魅力となり、MICE 新規誘致及びリピーター確保に繋がっている。

2. シンガポール

(1)シンガポールの概要

シンガポールは中華系、マレー系、インド系、その他で構成される多民族国家である。国土が小さく、資源がないため、弱みを克服するような取組みを積極的に実行してきた。シンガポールを訪れる外国人観光客数は 2013 年では約 1,556 万人に達した。東南アジアのビジネスハブとして経済発展著しいシンガポールだが、2002 年の SARS、2008 年のリーマンショックの影響を受け、その翌年は減少した。しかし 2010 年のセントーサ島、マリーナ・ベイ・サンズの統合リゾート (IR) のオープンを契機にシンガポールを訪れる観光客が増加した(図 7)。

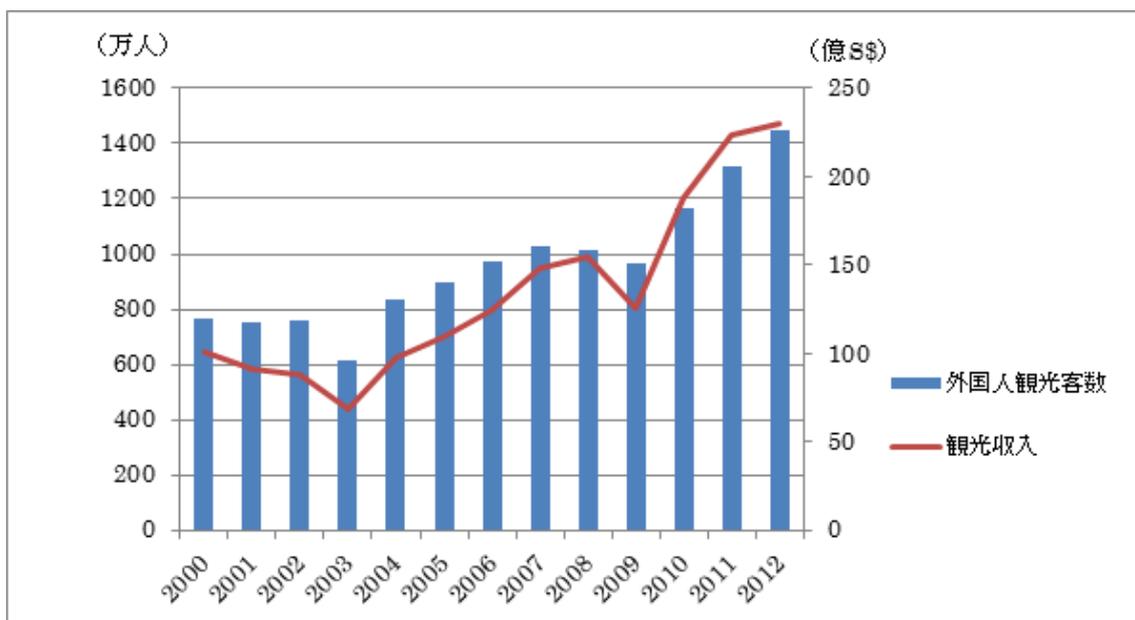


図 7 外国人観光客数と観光収入の推移

(出典：Singapore's Tourism performance for Q4 2013",STB より作成)

観光客数増加の背景として 2005 年にシンガポール政府観光局 (STB) が発表した観光 10 年計画「Tourism 2015」の戦略が挙げられる。この「Tourism2015」では、2015 年までに来訪者 1,700 万人、観光収入を 300 億シンガポールドルにすることを目標としている。この目標を達成するため、シンガポールは、国際会議や展示会の開催など MICE 分野に力を入れている⁷。



図 8 マーライオンとマリナ・ベイ・サンズ

ICCA の 2013 年国際会議開催統計によると、シンガポールは、都市別国際会議開催件数が 175 件で世界第 6 位、アジア・大洋州地域で見ると第 1 位と躍進している。

また、観光・MICE 振興を目的に、2005 年にカジノを合法化し、IR (統合型リゾート) を導入した。シンガポール政府は、アジア観光市場での競争力強化にむけて、マリナ・ベイ・サンズ(以下 MBS)、リゾート・ワールド・セントーサ (以下 RWS) の 2 か所を統合型リゾートとして開発した。MBS はターゲットを、ビジネス・コンベンション客、RWS はターゲットを家族・レジャー客とし、ターゲットをはっきりと区別することで成功している (表 6)。

特に RWS はビジネス要素とエンターテイメント要素を同時に演出できることが特徴で

⁷ 出典：国土交通省観光庁 『<参考>MICE マーケティング戦略』 P.3
<http://www.mlit.go.jp/common/000193497.pdf#search='%E3%82%B7%E3%83%B3%E3%82%AC%E3%83%9D%E3%83%BC%E3%83%AB+MICE'> (2014/11/10 アクセス)

ある。例えば、ユニバーサルスタジオシンガポールを貸し切ったの報償パーティーなどが行われている。ビジネス需要にエンターテイメント要素をミックスする機能を備えるのは数々のエンターテイメントを有する RWS の強みである⁸。

表 6 シンガポール IR 施設比較

	マリーナ・ベイ・サンズ(MBS)	リゾート・ワールド・セントーサ(RWS)
ターゲット客層	展示会・会議来訪者、観光客等	レジャー・ファミリー等
会議・展示施設	120,000 m ²	60,190 m ²
小売スペース	74,300 m ²	29,260 m ²
ホテル	2,561 室	1,830 室
カジノ	カジノテーブル：789 スロットマシン：1,650	カジノテーブル：560 スロットマシン：1,600
その他	空中庭園、劇場他	USS、水族館他

(出典：広島銀行「シンガポールの外国人観光客誘致策『2つのカジノ』」より作成)

<http://www.hirogin.co.jp/lib/kaigai/singapore/report/si1404.pdf>

(2)シンガポール MICE の強み、優位性

シンガポールは、東南アジアの中心に位置し、飛行機で 7 時間以内にアジアの大都市が集中しているという地理的優位性を有している。世界各国 180 都市へ航空会社が就航し、24 時間機能するチャンギ国際空港があることは最大の強みである。また、世界 600 の港湾に繋がるシンガポール港もある。世界トップレベルの物流拠点となっているため、機械やエネルギー関連の国際的な展示会も頻繁に開催されている。

さらに、公共交通機関である MRT がシンガポール国内を網羅しており、容易に移動することができる。8,000 人収容可能な会議施設「シンガポール・エキスポ」は、チャンギ国際空港から MRT 一駅で簡単にアクセスできる。

加えてシンガポールはそれぞれの民族で言語が異なるため、国策として公用語を英語とした。さらに、それぞれの母国語も幼いころから学ぶため、国民のほとんどはバイリンガルである。このため英語が普及しており、観光や、ビジネスで訪れる際にも安心して過ごすことが出来る都市となっている⁹。

また、東南アジアにおけるビジネス拠点であるため、シンガポールを海外進出の拠点、あるいは本社機能を移転するケースが増えている。このことから、会議開催に有利な条件

⁸ 出典：vigour-travel.com 多彩な演出が可能！リゾート・ワールド・セントーサの MICE&団体旅行 <http://vigour-travel.com/uproad/BULOG/SIN.USJ.No2.pdf> (2014/11/11 アクセス)

⁹ 出典：oshima-k.ac.jp 『マレーシアとシンガポールにおける言語政策 宮奥 正道』P.110 <http://www.oshima-k.ac.jp/kakari/tosho/kiyou/kiyou39/contents/18-17%20Miyaku.pdf#search=%E3%82%B7%E3%83%B3%E3%82%AC%E3%83%9D%E3%83%BC%E3%83%AB%E3%83%90%E3%82%A4%E3%83%AA%E3%83%B3%E3%82%AC%E3%83%AB%E6%94%BF%E7%AD%96> (2014/11/11 アクセス)

が整っていると考える。

(3)シンガポール MICE の弱み、課題

シンガポールは、著しい経済発展を遂げてきた。しかし近年、経済発展を支えてきた外国人労働者の増加が、不動産価格をはじめとする物価の上昇を招き、次第に国民の暮らしを圧迫した。そのため、シンガポール政府は、外国人労働者の登用を規制している。

また、日系企業への影響についても、独立行政法人日本貿易振興機構(JETRO)が実施した2013年度「在アジア・オセアニア日系企業実態調査」によると、「投資環境上のリスク」としてシンガポール進出企業の40.9%が「労働力の不足・人材採用難」を、68.8%が「人件費の高騰」を挙げている。特にサービス業に関し、人材不足が懸念されている。

(4)先進地から考える沖縄の学ぶべき点

国土が狭く、資源の乏しいシンガポールは弱みを克服するため、積極的に都市開発を行っている。特に、実地調査で訪れた MBS、RWS では夜間における無料のショーなどを提供しており1日中楽しめる工夫がなされていた。沖縄県の課題に夜間、雨天時のエンターテインメントの不足が挙げられ、課題解決に向け参考にすべき取り組みであると考えられる。

またRWSはビジネスとエンターテインメントの2つの異なった要素を組み合わせることでオリジナリティー溢れるMICEを提供している。RWSのように、沖縄県でも独自の自然資源や文化的特性など組み合わせた取り組みが可能であると考えられる。

第4章 私たちの提案～MICE TOWN 構想 2014～

沖縄県はこれまで観光リゾート地として成長してきた。しかし、近隣のアジア諸国には世界的に有名なリゾート地も多くあり、その中で沖縄県がMICE開催地として選ばれるためには他地域と差別化をしていく必要がある。

これまでの沖縄県内調査及び国内外先進地調査研究を踏まえ、沖縄MICEの発展に繋がる『MICE TOWN 構想 2014』を提案する。コンセプトは、「All for MICE」とし、全ての来場者に満足してもらえるような機能集積型施設にする。ビジネスマンには使いやすく、また、仕事と子育てを両立する女性でも訪れやすい環境を作る。この構想の案として①施設開発・街づくり、②MICE人材養成、③MICE特区化の3つを挙げる。

① 施設開発・街づくり

様々な人が利用しやすいよう、全館バリアフリーかつ通路は動く歩道を設置し、移動利便性を高めるほか、周辺の自然環境に配慮した施設とする。区域内に、世界、日本及び沖縄の「文化」毎に3本のストリートを作り、世界街では世界でも有名なブランドショップやシアターなどを設置したり、イスラム教などの各宗教にも対応できる施設とする。日本街は江戸時代の街並みを再現し、沖縄街は赤瓦で構築するなどの独自性を出す。

また、MICE参加者の子どもが楽しく過ごせて、親も安心して預けられる場所として、「保

育施設」と「キッズニア」を併設する。キッズニアとは子どもたちが楽しみながら社会の仕組みを学ぶことができる施設である。ここでは、仕事の疑似体験を通して得た専用のお金を利用して、沖縄ならではのアクティビティに参加できるようにする。更に、MICE TOWN 内に住宅エリアや研修施設を設置し、外国人を含む MICE 関係者の居住環境を整えるほか、研修施設を県内及び国内外の修学旅行などの教育旅行において活用を図る。

夜間プログラムとしてプロジェクションマッピングやプラネタリウム、ナイトバーなども充実させる。また光るボールを使用したナイトスポーツも提案する。雨天時には、室内イベント、「シルク・ドゥ・ソレイユ」のような常設ステージを設置し、「TEE・TEE・TEE」（空手をテーマにしたノンバーバル・エンターテイメント）のような沖縄ならではのイベントも誘致する。

② MICE 人材育成強化

MICE 産業の発展の為には、MICE を含む観光全般の重要性を県民に理解してもらい、県民の協力体制を強化することが不可欠である。

基礎的な取り組みとして、観光産業従事者向けの MICE 研修を強化するほか、現在実施している小学生向け観光教育の徹底を図るとともに、小学校段階からの英語教育を徹底し国際理解を促進する。また、専門的教育の機関として、琉球大学観光産業科学部に MICE 人材養成コースを新たに設置し、学生のみならず実践者向けの高度なプログラムを実施する。こうした特別プログラムを受講し、一定期間の実務を経験した専門家を対象に、一般の観光産業従事者との区別を図るための「MICE Concierge（マイス コンシェルジュ）」制度を創設し、MICE 産業振興のための高度人材育成を図る。

③ MICE 特区

MICE TOWN を経済特区として確立し、「MICE 特区」とする。所在地の住所を「沖縄県 MICE TOWN 1-1」のようにすることでインターネット検索において主催者が沖縄 MICE TOWN を容易に検索できるようにし、MICE 開催地に選ばれる可能性を高める。

さらに、規制緩和、税制上の優遇措置を行う。例えば、MICE TOWN での MICE 参加者及び家族ビザ緩和を図るほか、MICE TOWN 内にあるホテルや商業施設等の法人税や事業税の引き下げ、消費税免除措置強化などを行い、出店しやすい環境を整える。また、MICE TOWN 内に居住する外国人を対象とする在留資格や就業ビザ（査証）の条件緩和や在留期間の延長措置などを可能とする。

ここでは沖縄をモデル地域として提案を行ったが、提案内容は全国の地方都市においても地域特性を活かした取り組みとして応用が可能な提案である。沖縄県は、ビーチリゾートとしての評価は高いが、これからは、仕事をしながら家族で来られるビジネスとリゾートを組み合わせたビジネスリゾート地へと進化していくべきだと考える。

おわりに

本稿では、世界中で MICE 振興が進む現状をふまえ、特に MICE に力をいれている先進地域として横浜とシンガポールの現状から沖縄県の可能性を探り、沖縄県における MICE 振興のための提案を行った。

前述したように沖縄県は、2021 年度までに MICE 開催件数 1,000 件、参加者数 20 万人達成を目標としている。この目標達成のため、沖縄県は開催件数や参加者数などを把握する効果測定ツールの開発、マーケティング戦略の策定、またインフラ整備として那覇空港の段階的な拡張計画、そして大型 MICE 施設の建設などが計画されている。そして、私たちの行った提案を沖縄県の MICE 振興策に組み込むことでさらに大きな可能性を秘めた沖縄県の MICE 振興策になると考える。

今後の研究課題として、本稿における提案内容に関して国内外の MICE 先進地の実態調査、MICE 主催者や専門家への更なるヒアリング調査、沖縄県の MICE に関する主催者や参加者及び受入れ関係者への満足度調査等を行うことが必要である。

最後に、本論文の作成に当たって多大な協力を頂いた沖縄県、一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー、株式会社横浜国際平和会議場（パシフィコ横浜）、一般財団法人自治体国際化協会（クレア）シンガポール事務所、日本政府観光局（JNTO）シンガポール事務所の皆様に感謝致します。

参考文献・資料

沖縄県（2013）「MICE 誘致強化戦略・大型 MICE 施設のあり方調査事業 報告書」

沖縄県（2014）「観光要覧 平成 24 年」

一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー（2014）「沖縄県 MICE 開催実績統計調査 平成 24 年版」

一般財団法人 自治体国際化協会シンガポール事務所ヒアリング資料（2014/10/17）

JETRO「シンガポールのカジノ付設型統合リゾート」ヒアリング資料(2014/9/16)

古谷昌重、金子彰「地域振興のための MICE と「知」のクラスターの関係に関する一考察」

土木計画学研究・論文集、2009、vol.40、ROMBUNNO.224（オンライン論文）入手先

〈<http://www.jsce.or.jp/library/open/proc/maglist2/00039/>〉（2014/11/20 アクセス）

宮奥正道「マレーシアとシンガポールにおける言語政策」独立行政法人国立高等専門学校機構大島商船高等専門学校紀要、2006、vol.39、110-120、（オンライン論文）、入手先

〈<http://www.oshima-k.ac.jp/kakari/tosho/kiyou/kiyou39/contents/18-17%20Miyaku.pdf#search='%E3%82%B7%E3%83%B3%E3%82%AC%E3%83%9D%E3%83%BC%E3%83%AB%E3%83%90%E3%82%A4%E3%83%AA%E3%83%B3%E3%82%AC%E3%83%AB%E6%94%BF%E7%AD%96'>〉（2014/11/21 アクセス）

International Congress and Convention Association(ICCA) 「2013 ICCA Statistics

- Report Country & City Ranking」<http://www.iccaworld.com/cdps/cditem.cfm?nid=4036>
(2014/11/15 アクセス)
- フォーラム福岡「MICE のグローバル動向と日本の国際的な立ち位置」
http://www.forum-fukuoka.com/fukuoka/54_1825/ (2014/11/21 アクセス)
- 国土交通省 観光庁「政策について」
<http://www.mlit.go.jp/kankoch/shisaku/kokusai/mice.html> (2014/11/21 アクセス)
- 国土交通省 観光庁「我が国の MICE 分野の課題」
www.mlit.go.jp/common/000231922.pdf (2014/11/15 アクセス)
- 国土交通省 観光庁「我が国の MICE 競争力強化に向けて」
www.mlit.go.jp/common/000220220.pdf (2014/11/15 アクセス)
- 日本政府観光局「2013 年の国際会議開催統計(ICCA)の発表」
<http://mice.jnto.go.jp/news/2014/PressRelease20140530>(2014/11/15 アクセス)
- 沖縄県「平成 24 年度外国人観光客満足度調査報告書 概要版」
http://www.pref.okinawa.jp/site/bunka-sports/kankoseisaku/kikaku/report/inbound_survey_report/documents/h24inbound_brief.pdf (2014/11/20 アクセス)
- エンターテイメント創出・観光メニュー開発等支援事業「元気プロジェクト」
http://www.genkiproject.jp/progress_detail.html?cat=87# (2014/11/17 アクセス)
- 一般財団法人南西地域産業活性化センター「平成 24 年度自主研究事業 沖縄における欧米観光客の誘致に向けた基礎調査」
[http://www.niac.or.jp/topix/How%20to%20Attract%20Western%20Tourists%20for%20Okinawa%20\(Jp\).pdf](http://www.niac.or.jp/topix/How%20to%20Attract%20Western%20Tourists%20for%20Okinawa%20(Jp).pdf) (2014/11/20 アクセス)
- 株式会社日本政策投資銀行「アジア 8 地域・訪日外国人旅行者の意向調査 (平成 25 年版)」
http://www.dbj.jp/pdf/investigate/etc/pdf/book1312_01.pdf (2014/11/20 アクセス)
- 内閣府「沖縄科学技術大学院大学について」<http://www8.cao.go.jp/okinawa/4/49.html>
(2014/11/20 アクセス)
- 沖縄県「大型 MICE 施設整備と街づくりへ向けた基本構想」
http://www.pref.okinawa.jp/site/bunka-sports/kankoshinko/yuchi/documents/set_140804_h25kihonnkousouhoukokusyo1.pdf (2014/11/15 アクセス)
- 沖縄県文化観光スポーツ部「沖縄県における MICE 誘致・開催の取組み」
<http://www8.cao.go.jp/okinawa/4/kokusaikaigi/16/02.pdf> (2014/11/15 アクセス)
- 沖縄県文化観光スポーツ部「沖縄県 報道発表資料」
<http://www.tourism.co.jp/be.okinawa.pdf#search='%E6%B2%96%E7%B8%84%E7%9C%8C+be+okinawa'> (2014/11/21 アクセス)
- 海邦総研「沖縄県の MICE 動向～主な国際会議の経済波及効果～」
<http://www.kaiho-ri.jp/wp-content/uploads/2011/05/kri-outlook038.pdf> (2014/11/15 アクセス)

野村総合研究所「MICE の獲得に向けた国内各都市の取り組みに向けて」
<https://www.nri.com/jp/opinion/region/2012/pdf/ck20120903.pdf> (2014/11/20 アクセス)

琉球新報「OIST 技術で創薬・研究へ 初ベンチャー設立」
<http://www.okinawatimes.co.jp/article.php?id=78403> (2014/11/21 アクセス)

日本経済団体連合会「新たな成長を実現する大規模 MICE 施設開発に向けて」
http://www.keidanren.or.jp/policy/2013/060_honbun.html (2014/09/27 アクセス)

MICE JAPAN「MICE の国際的動向」
http://mice-japan.alexis.jp/about_worldwide_mice.html (2014/09/27 アクセス)

パシフィコ横浜「パシフィコ横浜 日本最大のコンベンションセンター」
<http://www.pacifico.co.jp/index.html> (2014/11/21 アクセス)

パシフィコ横浜「Annual Report 2013」
<http://www.pacifico.co.jp/company/download/annual2013.pdf> (2014/11/14 アクセス)

パシフィコ横浜「Annual Report 2012」
<http://www.pacifico.co.jp/company/download/annual2012.pdf> (2014/09/27 アクセス)

横浜市 MICE 機能強化検討委員会「国際競争力ある MICE 拠点都市の確立を目指して」
<http://www.city.yokohama.lg.jp/bunka/kancon/convention/mice/honbun.pdf>
(2014/11/08 アクセス)

横浜市「横浜市 MICE 機能強化に向けての提言書 参考資料」
<http://www.city.yokohama.lg.jp/bunka/kancon/convention/mice/sankou.pdf>
(2014/11/08 アクセス)

文化観光局観光振興課「横浜市記者発表資料」
<http://www.city.yokohama.lg.jp/bunka/kancon/kanko/data/shihyo25.pdf> (2014/11/09
アクセス)

日本政府観光局(JNTO)「2012年国際会議統計 第1章日本で開催された国際会議の動向」
http://mice.jnto.go.jp/data/stats/pdf/cv_tokei_2012_1shou.pdf (2014/11/12 アクセス)

国土交通省 観光庁「MICE で今後取り組むべき政策課題 (議論用ペーパー)」
<http://www.mlit.go.jp/common/000193497.pdf#search='mice%E3%81%A7%E4%BB%8A%E5%BE%8C%E5%8F%96%E3%82%8A%E7%B5%84%E3%82%80+%E8%AD%B0%E8%AB%96%E7%94%A8'> (2014/11/21 アクセス)

広島銀行「海外拠点レポート シンガポールの外国人観光客誘致策『2つのカジノ』」
<http://www.hirogin.co.jp/lib/kaigai/singapore/report/si1404.pdf> (2014/11/21 アクセス)

Vigour-travel.com「刺激的な体験を約束する USS の MICE 会場」
<http://vigour-travel.com/uproad/BULOG/SIN.USJ.No2.pdf> (2014/11/15 アクセス)

沖縄コンベンションビューロー「沖縄インバウンド net」
www.visitokinawa.jp/oin/ (2014/11/15 アクセス)

シンガポール政府観光局公式 WEB サイト「Your Singapore」
www.yoursingapore.com/content/traveller/ja/experience.html (2014/11/15 アクセス)

シンガポールビズ「シンガポール進出の 10 の理由 なぜシンガポールなのか」

<http://sg-biz.com/business1html.html> (2014/11/17 アクセス)

Tourism Malaysia Official Site「ミーティング & インセンティブ (MICE)」

<http://www.tourismmalaysia.or.jp/mice/convention.html> (2014/11/21 アクセス)

日本貿易振興機構 (JETRO)「外国人就業規制を強化」

<https://www.jetro.go.jp/jfile/report/07001609/07001609.pdf> (2014/11/23 アクセス)